

点訳通信

121号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係

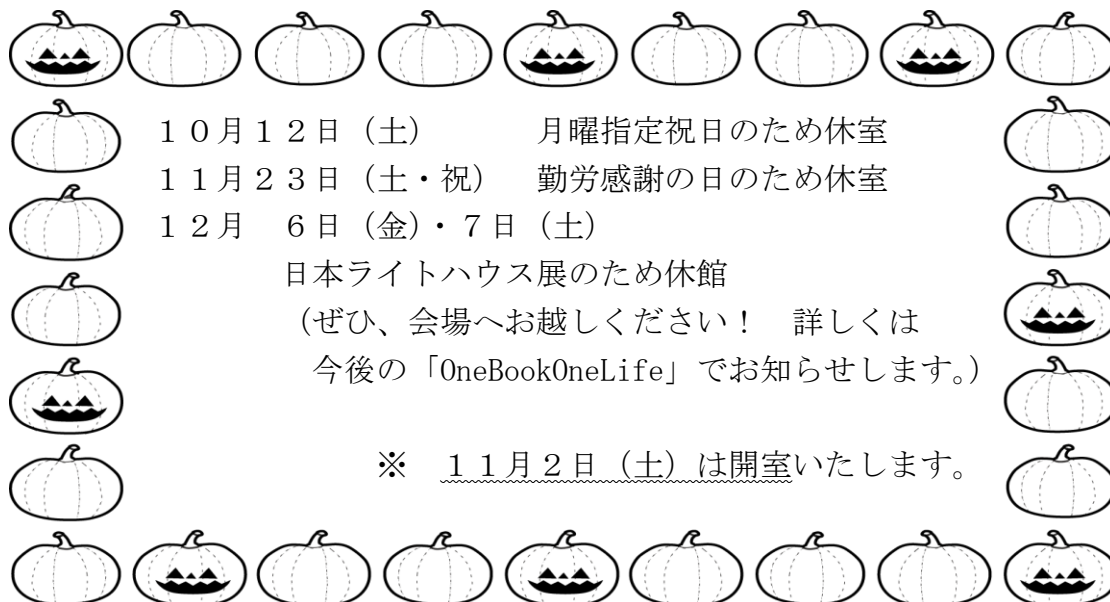
発行責任者 久保田 文

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
Tel 06-6441-1028(点字製作係直通)

9月から10月にかけて、各係持ち回りの館内職員向け研修で点訳講座を開催しています。参加者のほとんどは「一覧表を見て読み書きしたことはあるけれど、仕組みは知らない」とのこと。点字の世界は、たった3回の講座では全てを伝えられないほど奥深いものですが、今までは点々の集まりにしか見えなかったものから言葉が伝わってくるワクワク感を楽しんでほしい、点字がわかる職員を増やしたい…、と思いながら準備をしました。

先日の専門点訳講習会（英語、理数系教材）を受講された方なら、「haveは“h”1マスに縮められるな…」とか、『点訳のてびき』に載っている数学や理科の記号の意味がわかった！」など、新たな発見があったかと思います。今後の点訳活動に生かしていただけますと幸いです。（点字製作係 木田陽子）

休館のお知らせ



(C) WANPUG

専門講習会「英語コース」「理数系教材点訳コース」報告

今年度は2つの専門点訳講習会を開催いたしました。5月16日～7月25日（いずれも金）の「英語コース」全7回では統一英語点字（UEB）を学習し、英語科の教科書の点訳事情に

ついでに講義を受けました。

また8月24日～9月14日（いずれも土）の「はじめての理数系教材点訳コース」全6回では、数式や化学式の書き方、触図の作り方や言葉で図を説明する時の注意点などのほか、さまざまな科目で出てくるビジュアル重視の内容についても学びました。なお最終日9月14日の午後は、受講生だけでなく、他の方にも呼びかけてシンポジウム「今後の理数系点訳を考える」を行いました。前半はパネリスト4人からこれまで点字教科書に関わってきた経験を、それぞれの立場でお話いただきました。後半は、フリーディスカッションを行い、理数系点訳を継続するために必要な条件とは何か、理数系点訳を志してみようと思うきっかけなどについて自由に意見交換を行いました。

それぞれのコースに参加された方に、講義内容をレポートしていただきます。



増田芳子さん（「英語コース」受講）

2024年度専門点訳英語コースを受講しました。

地元で点訳を習い始めた時に、「切れ続きを考えなくてよい」「パズルを組み立てるようなゲーム感覚で楽しい」という英語点訳を知り以前から興味を持っていました。私は何度か英語点字の受講の機会を逃していたので、始まるのを楽しみにしていました。でも、有名な先生だけ怖かったらいやだなあ、英語も読めないけど大丈夫かなあという不安もありました。



早速、第1回講習から縮約が登場しました。アルファベット（a, i, oを除く）で一単語が表せる点字です。意外と覚えられるかも。そして何て便利なの。さらに強縮約語です。かなで「かくすさしや」の点字にそれぞれ単語が当てはめられています。ちょっと無理やり覚えなくてはならないな。次の回からさらに、縮約が増えます。第3回、下がり縮約に入ると、もう頭が混乱してしまいました。同じ点の形でも、使い方でも2通りも3通りも読めたり、使えたり使えなかったりするのです。なかなか頭に入りきらないまま頭字縮約、末字縮約、短形語と進みます。福井先生のすぐに覚えなくていいですよ～というやさしい言葉に支えられ、ひたすら一覧表を見ながら、課題をこなしました。これでいいかと提出したら「a r」「o u」「e d」などを見落としていました。

さらに、細かいルールが続きます。日本語の場合と英語で異なる記号があるのも曲者です。今回、英語点訳を受講したことで、日本語の点訳にも役立てることができたらと、ますます、しっかりと覚えなくてはならないと思いました。日本語の点訳にある程度慣れたこの時期に受講できて、むしろよかったかもしれません。

講義の中で毎回息抜きのMusic Cornerがありました。点字の歌詞を読み取った後（Reading Practice）、正解の曲を流していただきます。皆、静かに聞いていましたが、私は盛り上がっていました（福井先生と同じ年生まれでした）。最終の奥野さんの講義でも1曲紹介していただきましたが、それまでラジカセのような携帯用再生機を使っていたのがiPhoneに



変わったので、少し笑ってしまいました。

今回受講生全員が最後まで出席できて嬉しかったです。課題を校正してくださった池田さん、前田さんありがとうございました。折角の学んだ知識、なるべく永く続けていきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

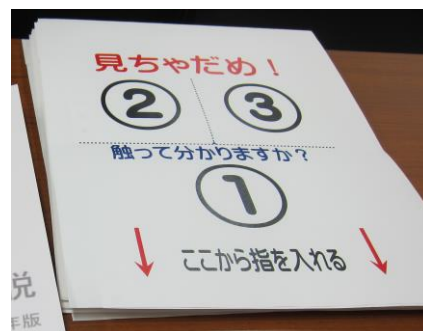


(C)いらすとや

栗谷博子さん（「はじめての理数系教材点訳コース」受講）

数式や化学式は、一般書点訳の中で出てくることもあり、きちんと学びたいと思い、今回の講習会に参加させていただきました。

受講初日は、福井先生による小学校算数の講義から始まりました。5・6の点(読点や英字符)が、数式指示符や単位始まり記号としても登場(多様性!?)、しかも使ったり、使わなかったり(化学式でも同様)で、早々に頭の中はざわつきます。目で何度も見返してやっと理解できるという難読さなのに、これを触読で読み分ける生徒さんはすごいなあというのが、最初の驚きでした。午後は、加藤先生の触図の講義で点図が配布されました。直接見えないようにカバーが掛けられ、『見ちゃだめ！ 触って分かりますか?』と書かれている課題。「まる? いや、角もあるし…」と悩むこと数分。見ればひと目で分かる簡単な図(六角形、立方体など)なのに、点をなぞって判読することの大変さを体験しました。



2日目の午前には、福井先生から数学・化学の表記や表作成での注意点を学びました。宿題で出た問題は「立体幾何学の設問とその解答」の点訳でした。学んだことを使った点訳はできるのですが、その内容にびっくり!紙に立体図を描いて設問通りに線を結べば、すぐに答えられる問題ですが、点字の情報だけで、頭の中に立体を思い浮かべて解答すると考えると、その難しさは想像をはるかに超えるものでした。午後は、奥野さんから、「英語・国語・社会の点訳のエッセンス」と題しての講義でした。どの教科もビジュアル資料が多用されていること、それをどのように伝えるか(伝えないか)。点訳に際しては、描かれていることの本質と枝葉の見分けなど、理解力と表現のスキルが必要だと感じました。

3日目午前は加藤先生による2回目の触図作成の講義で、数学・物理・生物の図やグラフなど多岐に渡る難問のオンパレード。正解のない答えを「創り出す」苦しみを垣間見ることができました。午後は、「今後の理数系点訳を考える」と題したシンポジウムで、当事者、教材製作、ボランティア、教員といった、異なる立場の方からの熱い思いを伺いました。情報は9割が目から入ると聞いています。インクルーシブ教育がすすめられ、「晴眼者と障害者がともに学ぶ教室での点字教材」という視点も必要とのことで、大変さも感じつつ、多くの時間や人手のかかる作業に対して、何かの形で少しでもお手伝いできればとの思いを持った3日間でした。先生方、ありがとうございました。



(C)いらすとや

新任職員の紹介



(C)いらすとや

6月より点字製作係に勤務しております川嶋健太と申します。どうぞよろしくお願いたします。

大学では精神障害者への支援について学んでいました。縁あってこちらへ来ることになりありがたく思っています。振り返りますと中学生の頃の職業教育で日本点字図書館に行き触読校正を体験してから点字製作の仕事にはひそかにあこがれていました。その夢がかなったのですから人生何かあるかわからないものです。

大阪での一人暮らしも慣れてきました。田舎とは違い飲食店もスーパーも徒歩で行けますので便利です。週末は杖一本を小脇に抱えおいしいお店、楽しい場所はないかと探検しています。行きつけのインドカレー屋さんの店主とも仲良くなりました。車を使わず一人でどこへでも行けますからとても楽しいです。

趣味は津軽三味線と東北や北海道の民謡を謡うことです。10年ほど続けており、全国大会にも出場しています。中学3年の時師匠が亡くなりました。8年近くたちますが今も師匠に届くようにと練習する毎日です。どこかで皆様にもお聞きいただけましたら幸いです。

仕事も徐々に慣れてきました。先輩方からいろいろなことを教わる毎日は、とても充実しています。

これからは点字使用者、製作者として点字についてさらに深く学び、いろいろな仕事を任せてもらえるよう日々精進いたします。

皆様、気軽に声をかけてください。どうぞよろしくお願いたします。

マンガ点訳勉強会を開催します

11月7日(木) 13時半～16時に、4階会議室で、当館の点訳ボランティアの方を対象にマンガ点訳勉強会を行います。最近の書籍に多く取り入れられているマンガを点訳することに躊躇されていたり、どのようにマンガを点訳すれば良いのか迷っている方も多いと思います。そこで、「マンガ点訳」についてポイントをおさらいします。



(C)いらすとや

★ 現在点訳されている図書などで疑問に思われているマンガがあれば、10月17日(木)までに点字製作係までお持ちください。その際、①原本もしくは該当個所のコピー、②点字データ、をご持参いただきますよう、よろしくお願いたします。

参加申し込みは、8階の受付表にご記入ください。

ご不明な点がありましたらご連絡ください。